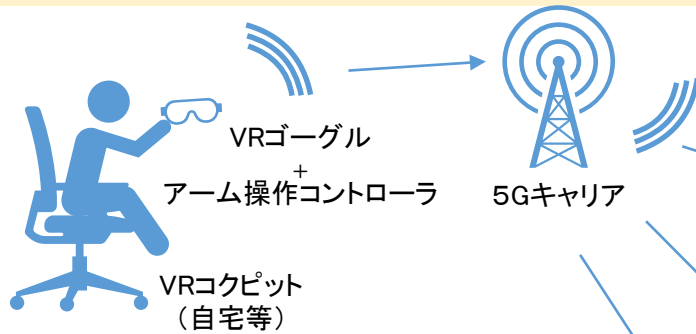


提案件名	● アバターロボットの規格統一による屋外活動困難者の社会活動支援	対象分野	生活・暮らし
応募者名	RKB毎日放送株式会社		

- 遠隔操作可能なアバターロボットの規格統一による屋外活動困難者の社会活動促進
＜提案の背景となる社会問題＞
- 身体的な問題や、育児などの環境的な問題で、外出が困難な人々が多く存在する。
- 離島が多い日本において、離島で暮らす人々の社会活動の選択肢が狭い
- 人材や企業が東京に集中してしまうため、地方での求人が少ない。



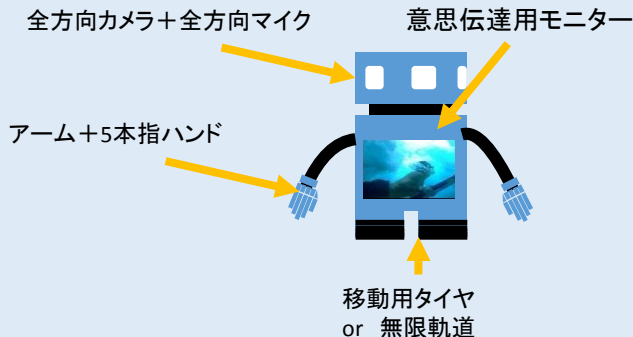
遠隔操作アバターロボットにより、社会活動の幅を広げ、屋外活動困難者の社会活動支援と、地域格差のバリアフリー化を目指す



自宅等で、VRゴーグルと、アームコントローラを使い、アバターロボットを操作して、自分の代わりに各種活動を遠隔地で行う。

遠隔制御

アバターロボット標準装備



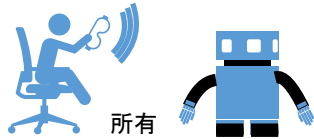
VR操作アバターロボットを介した遠隔活動

<p>買い物</p>	<p>観光</p>	生活支援
<p>会議</p>	<p>機器操作</p>	社会活動支援
<p>ロボット競技</p>	<p>コンサート鑑賞</p>	スポーツ・娯楽

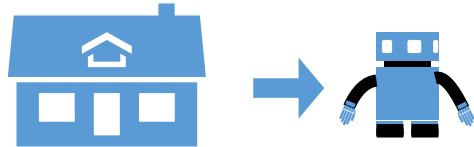
事業全体概要

車と同じ感覚で、所有したりレンタルをすることで
様々な目的が達成可能

所有アバターロボットを、自宅から派遣

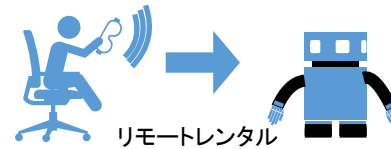


近所の買い物
自治会の会議参加
役所での手続き

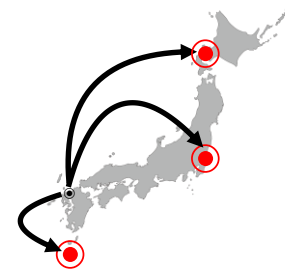


自宅を起点として、自宅付
近へのアバター派遣。自動
運転カーへの乗り込みで遠
隔地への派遣も可能

遠隔地のアバターロボットをレンタル



支社への出勤
観光地
災害派遣
パイロット派遣
コンサートへ参加



遠隔地へのアバター派遣に、ア
バターロボットの移動をせずとも
各地に配備されたアバターロボッ
トをレンタルすることで、自己所
有のアバターを輸送することなく
派遣可能。操作方法は規格統一
されているため、どのアバターロ
ボットを借りても、違和感無く操
作可能

5Gにより高画質の映像(360度映像)や操作情報を超高速・超低遅延で送る事ができ、アバターロボットを違和感無く操作可能なため、現場の状況をほぼリアルタイムで感じる事が出来る。

まとめ

アバターロボットの規格統一により、所有アバターロボットや全国に配備されたレンタルロボットを操作することが可能になる。



身体的ハンディキャップや環境的ハンディキャップによる格差を無くし、地域格差のバリアフリー化を行う。